

活動報告書

報告者氏名: 加藤 信一 所属: 山形市立第三小学校 記録日: 27年2月27日

【対象児の情報】

- 学年 自閉症・情緒障がい特別支援学級の小学6年生男児
- 障害名 知的障がいを伴う自閉症
- 障害と困難の内容
 - 手順へのこだわりが強く、予定変更、修正に強い抵抗感を持つ。また、状況を理解したり、指示の内容を理解し受け入れたりすることにも困難を持つ。
 - 不安、慣れない場面、要求が通らない時、大声や暴言で回避しようとする。
 - 自分の興味のあることを自由に話すことはできても、スピーチや聞かれたことに答える、自分の考えを発表する等、あらたまって話さなければならない場面で、語彙の不足もあって、適切な表現が思い浮かばず、話すこと自体に抵抗感を持ち自分の思いをただしく言語化できない。スピーチでの話題も限られている。
 - 文を書くことに抵抗感と苦手意識が強く、同じ表現の繰り返し、表記の誤りや間違った使い方が多い。自分で書いた文の修正にも抵抗感を持つ。
 - 本や文を読むこと、プリントの問題文を読むことに抵抗感がある。

【活動目的】

- 当初のねらい
 - 自分の体験したことや行動を振り返る活動に取り組み、話すこと、書くことへの抵抗感、困り感の軽減を図る。
 - 自分から発信し、受け入れてもらったという体験を多くすることで自信を持たせる。
- 実施期間 6月2日～現在
- 実施者 加藤 信一
- 実施者と対象児の関係 学級担任

【活動内容と対象児の変化】

• 対象児の事前の状況

対象児はゲームが好きで、家では、パソコンで自分の気に入ったCMや歌をYouTubeで検索して聴いたり見たりして楽しんでいる。iPadの使用は初めてである。iPad自体については名前を知っている程度で、操作したことも、実際に触ったこともなかった。

不安な時、できる課題に対しても難しいと感じたりわからないと思ってしまう時、自分の思いと異なる時、自分の要求が通らない時に、大声をあげたり、暴言を吐いて回避したりする行動が多く見られる。また、朝の会でのスピーチでは、同じ表現や内容になりがちである。そのことから、周囲の子どもたちからは「また同じことを言っている。」、うるさい子、自分勝手な子と見られてしまいがちである。発言をしても受け入れられないとの思いを強く持っている。

作文や日記では、順番や書きたいことをうまく表現できず、書き直しにも抵抗感を持つことから、書くこと自体への抵抗感になっている。そのため、書く内容も同じパターンになってしまいがちである。

• 活動の具体的内容と対象児の事後の変化

本児は、書くこと、話すことへの抵抗感を強く持っている。そのため、使用時の約束やルールを確認し、iPadの操作に慣れる、写真やビデオの撮り方を知る、文を打ち込む方法を知ることから始め、その後iPadを活用して自分の思いをつづる、自分の思いを発信する等の活動を取り入れていく。発信することで受け入れてもらった体験を持つことで自信を高め、周りから受け入れられないという困り感の軽減を図っていく。

①iPad の操作に慣れる

活動内容

- ・ルールや使い方の確認。
- ・タイマーを使用し、自分が取り組む時間を決める。
- ・課題を決めて取り組む。→学習課題終了後、要求があった時、学習の補充として活用する。

使用アプリ

低学年向けのし算ひき算～算数忍者～

ゆびドリル：小学生かんじ、小学生国語言葉と文 日本パズル 日本地理クイズ



SlideMovies など

事後の変化

- ・iPad の操作に慣れ、時間を決めてアプリの課題に取り組む。日本パズルで県名と位置を覚え、更にそれぞれの県の特産品や特徴に興味を持ち学習が深化する。
- ・ゲーム形式での漢字の練習、言葉の学習のため意欲的に課題に取り組む。作文の中で漢字の使用、読み替えに抵抗が少なくなり、漢字学習に意欲が出る。プリントなどの紙ベースでは間違ふこと、分からないことに抵抗感を持つが、抵抗感を持たずに漢字や言葉の学習に取り組む。



②校外学習について提案する

活動内容 「市民プールに行こう」「かかし祭り見学に行こう」

- ・自分のしたいことや行きたいところを決める。
- ・交通手段とその時間、施設について、その施設でできることについて調べて発表する。
(使用アプリ；マップ、Safari)
- ・調べたことをもとに計画し、友達に提案する。→友達の意見ややりたいことも入れて計画を見直し校外学習を実施する。

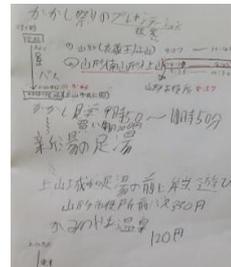


事後の変化

- ・自分で調べることで、活動への意識が高まり、活動に見通しを持って取り組み、余裕が見られる。また、「かかし祭り」について調べる中で、自分から自由帳にメモを取り、計画を立てようとする。
- ・提案では、自分の考えを通そうとするだけでなく、友達の意見を受け入れ、計画を修正する場面が見られた。
- ・「次は、〇〇に行きたいな。」と話し、自分から施設を調べようとしている。また、自分で検索バーに調べたい言葉を打ち込み調べようとする事が多く見られるようになる。



レストランもあって、
ぼくのおすすめは、カ
レーライスとオレンジ
ジュースです。



市役所前からバスに乗る
んだな。降りるところは、
かかし祭りのすぐわきに
バス停があるんだね。調べ
たことをノートに書いて
おこう。帰りは電車がいい
な。

検索して調べた市民プールのことについてみんなの前で発表する。

調べたことのメモを元に計画表にする。

③自分の思いをまとめる、伝える

活動内容

- ・日常生活やイベント、校外学習等の活動時、活動後に自分の思いを文にまとめる。まとめた文を手がかりにして、振り返りやスピーチ等で発表する。(瞬間日記, カメラ)
- ・校外学習の振り返りとして「かかし祭り見学」の思い出アルバムを作る。

写真を選ぶ→写真にあった文を書く(瞬間日記にまとめた文を振り返りに使用)
→iPadに打ち込む→自分のまとめたことをテレビに映し出しながら発表する。



(Keynote, 瞬間日記)

- ・他校との交流会で学級紹介をする。(Keynote)

写真を選ぶ→写真にあった文を書く→iPadに打ち込む→打ち込んだものをテレビに映し発表
→発表の仕方、まとめた文についてアドバイスをもらう→アドバイスを受けて修正
→発表の練習をする→交流会で発表

- ・卒業アルバムの文集を作る(楽しかったことを文にまとめる)

書きたい項目を決める→項目毎に自由に出来事や楽しかったことをiPadで打ち込む(慣れて気に入っている瞬間日記を使用)→打ち込んだものを元に文を見直し下書きを書く→原稿用紙に写していく

事後の変化

- ・いろいろな場面で「瞬間日記」に気になったことや思ったことを自分なりの言葉で打ち込むようになる。間違ってもiPad上ではすぐ修正できるため抵抗なく書き込もうとする。以前は、食べた物やゲームのことが中心の日記から、学校であったこと、感じたり思ったりしたことを入れてまとめることが多くなった。書くことへの抵抗が減り、日記の行数が増えている。
- ・「瞬間日記書こうかな。」と自発的に書こうとする場面が見られる。「この写真を撮りたいな。」と話し、自分から写真を撮り、説明を文にまとめようとする場面が見られる。
- ・振り返りやスピーチでは、「瞬間日記」を元にして話すことで発表することへの抵抗感が少なくなる。
- ・Keynoteに書き込む時、予測変換を使って適切な漢字を選び表そうとする。
- ・紙ベースで書いた文の表記の誤りや間違った使い方に気づき、自分から修正しながらiPadに打ち込むことができた。
- ・卒業文集の下書きでは、6年間の思い出を学年毎に項目を立てて文にする。2年生の時に校外学習で行った施設の遊具名が気になり、自分からSafariを立ち上げて検索し名前を調べる。その時のことを思い出し楽しかったことを話し、調べたことを入れて文にまとめることができた。



校外学習時、気に入った所を写真に撮る

〈アルバム作りの様子〉



写真や瞬間日記に書いた文を手がかりに、自由に文に出来事をまとめる。



自分から修正したり付け加えたりしながら、まとめた文をKeynoteに打ち込む。



できた作品をみんなの前で発表し、アドバイスを受けて入れて修正する。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

- ・ iPad を使った文作りでは、書きたいことを自由に打ち込み、間違ったり付け加えたいことが出てきたりした時に変更し修正することが容易にできる。また、予測変換により候補の中から言葉や文字を選ぶことができるため文が作りやすい。容易に修正や追加、順番を変えることができることで、書くことへの抵抗感の減少につながった。
- ・ 瞬間日記や Keynote での活動は、思ったことや感じたことを即時に表現することが容易である。そのことで、日記の内容にも広がりが見られる。
- ・ 発表では、瞬間日記に自分で書いた文を手がかりに話す。手がかりがあることで、話すことへの抵抗感の減少につながった。
- ・ Safari 等で調べる活動、SlideMovies での作品作り、理科・社会の学習での「NHK for school」の視聴の要求と iPad を使うことで自発的に活動しようとするようになった。

○エビデンス

- ・ 二、三行程度だった毎日の日記の行数が増え、内容も豊かになった。また、発表や聞かれたことに対して、自分なりの表現での思いを話すことが多くなっている。
- ・ 言葉の使い方や文末の表現、接続詞の誤りなどについてのアドバイスを、抵抗感なく受け入れることができるようになってきた。また、自分が書いた文を読み返し、自分から書き直したり修正したりすることが多くなった。(修正の受け入れ)
- ・ 自由帳にオリジナルで書いていた絵を SlideMovies で作品にしたところ、「パラパラマンガだ。」と話す。その後、関連がなく単発で描いていた絵が、複数の絵でシリーズ物にしたり、テーマを決めて表現したりするようになる。誰にも見せたがらなかった絵を、うまくできたときは、自分から話をしながら見せてくれるようになっていく。自分だけの楽しみから、他者と共有する活動に変わってきている。
- ・ Keynote で作った学級紹介のスライドを発表したあと、スライドだけでなく、自分の作品を「校内の友だちにも見せたい。」との意欲を持った。
- ・ 気になることや気になる言葉があると自分から iPad の使用を要求し、Safari を立ち上げて検索することが多くなる。
- ・ 発表の場を用意し、伝えたい思いを大切に活動させてきたことで、周りの子の本児に対する「困った子、騒ぐ子」との見方が少しずつ軽減し、「うるさいこともあるけれど、絵が上手だね。」「あの時、ぼくも同じことを思ったよ。」「〇〇君はそう思ったんだ。」等と、周りの子から認められる場面が多くなった。そのことが本児の自尊感情を高めていく一助になっている。